

岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 江口 健治郎

学校住所 可児市中恵土2358の1 電話 0574-62-1185

1 会議の名称 平成26年度可児工業高等学校評議員会（第2回）

2 会議の構成 委 員 石原 里佳 元PTA役員、会社役員
菊池 美智留 可児市青少年育成アドバイザー
小池 實 可児市中恵土自治会連合会長
林 善彦 可児市下恵土自治会連合会長
藤田 幸夫 (株)甲山製作所社長
(委員名五十音順)

学 校 側 江口 健治郎 校長
若尾 泰明 教頭
伊佐治 敬二 事務長
土田 公成 教諭 (教務部長)
伏見 圭太 教諭 (生徒指導部長)
水野 茂之 教諭 (進路指導部長)
竹ノ内 秀樹 教諭 (工業部長)
兼松 竹司 教諭 (部活動推進部長)

3 会議の目的 岐阜県立可児工業高等学校評議員会設置要綱に基づき、平成26年度の教育方針・重点及び学校課題について取り組み状況を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け、本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成27年1月21日(水) 13:30~15:00 可児工業高等学校
評議員3名(2名欠席)と学校側8名が出席

5 会議の概要

(1) 平成26年度電気システム科「課題研究発表会」参観

電気システム科「課題研究発表会」を学習成果の一部として参観して頂いた。

(2) 学校長挨拶

(3) 学校の近況と課題の説明

教 務 部：進学系カリキュラムがスタートし、2年生では週2回の7限授業を実施し、1年生では4名が進学系を希望している。来年度から2学年での実施となる。

基礎学力向上を目指し、朝10分のチャレンジタイムを実施し各学年取り組んでいる。また、研究指定や教育相談など講師を招いた教員研修を実施している。

クリーブランド高校が来校し生徒の家庭にホームステイし交流を深めながら本校で各学科の実習を体験した。

文部科学省研究指定事業が2年目となり研究は進んでいる。来年度はまとめとなるので、仕上げに向けて取り組んでいる。

生徒指導部：遅刻者が増加傾向にあり、現在遅刻指導を強化している。

スマートフォン等のトラブルを未然に防ぐために情報モラル教育を積極的に行っている。

本校は自転車通学者が多いので、交通安全指導を行い自転車事故の防止に心掛けています。生徒一人一人が自分で判断し行動できる力が身につくよう指導をしている。

進路指導部：就職者が昨年より3.5ポイント下がった。進学者の割合が昨年度とほぼ変わらないが、未決定者が昨年より多くいることも原因であり、進路指導部として残念に思う。

求人状況は良好で、過去5年間で最高の求人者数と求人数であった。

工業部：飛び出せスーパー専門高校生の取り組みとして、企業・地域連携をテーマに、企業で技術・技能の指導を受け、学んだ技術・技能を活かしたものづくりをし、地域イベントに出展・参加する流れを作っている。環境フェスタへの参加や、加茂特別支援学校と連携し本校の実習を体験していただいた。

(4) 協議 テーマ「課題研究発表会の感想と学校への提言」

意見1 発表会で移動型交流発電装置に興味を持った。災害時の電気の確保は非常に難しい。良いテーマであり是非公民館祭りなどで発表していただきたい。

意見2 公民館祭りで子供たちが物を作ることを楽しそうに取り組み、完成したことを喜んでいた。本校の参加に心より感謝したい。

発表会は非常に良かった。小学生だった子が数年でこれほど成長するのかと感嘆した。学校だけでなく夜遅くまで、家でも物づくりに取り組む姿勢はすごいと思った。

意見3 立派な発表でした。現代はスマートフォンなどでのコミュニケーションが主流であるが、物づくりを通して先輩が後輩を指導し育てる。後輩は先輩を敬うことは、会社でも役に立つ。是非、続けてほしい。

＝就職者のうち、可児市に何名就職していますか？＝

可児市に就業場所がある企業への就職者は、県内で27名 38% 全体で31名 26%
産業フェアは、地域の企業を知っていただく機会にしている。

関では、バスにより高校生が参加している。可児でも同じようになればと思う。

可児市の活性化に向けて可児市で育て可児市で働くようになればと考えている。

＝企業でロボット競技への参加を考えている。＝

本校にご協力頂ければありがたい。

6 会議のまとめ

学校評議員の方々には、「課題研究発表会」を参観して頂くことで、ものづくりを通し社会から期待される人材育成を目指した教育活動に理解を深めて頂いた。2回の評議員会では、外から見た本校の印象や学校に対する期待など貴重なご意見を頂くとともに、将来に向けての指針を示して頂いた。地域からの期待も大きく、地域の力を借りながらの生徒育成の充実と、交通事故防止や安全で安心できる学校運営は今後も重要な課題と位置づけ推進していきたい。